

助けられて傷つくのは誰か

—無力さと性差の検討—

1230470 隅田奈央

指導教員 三船恒裕

研究背景

サポートとは本来、他者を助け、他者のストレスを軽減するために行われるものである。しかし、サポートされるということにより、被援助者が自分一人の力で問題を解決できない、自分は劣っていると思い、劣等感を抱く場合がある。そのとき、サポートは人を傷つけるものになる。

研究目的

無力さを喚起させるようなサポートを受けたときに感じるストレスの程度に性差があるか調べることが本研究の目的である。

研究方法

クアルトリクスでアンケートを作成し、ランサーズでアンケートを配布して回答させた。場面想定法を用いて、参加者は得意科目のテストを受けるという架空の実験に参加した。参加者は1回目のテストを受けた後にテスト結果をフィードバックされる。このフィードバックの際に平均点より低い点数を知らされ、頼んでもいないのにテストで良い点数を取るためのアドバイスをされるという状況を作ることで、無力さを感じさせるサポートの操作を行った。また、フィードバックされる点数を5つ用意し、無力さを段階的に操作した。そして、フィードバックされた際に感じるストレスを従属変数として測定した。仮説1の独立変数はサポートの有無と無力さの程度であり、仮説2の独立変数はサポートの有無、性別、無力さの程度である。

分析結果

仮説1では、サポートの有無と無力さの程度の交互作用効果は確認されたが、下位検定を行ったところ、サポートされるとストレスが減少するという、仮説と異なる結果となった。仮説2に関しても、サポートの有無と性別の交互作用効果は確認されたが、下位検定を行ったところ、女性の方が男性よりストレスが高く、ここでも仮説は支持されなかった。

考察・結論

仮説1、2も支持されなかった。様々な分析をした結果、本研究の操作方法では、サポートすることによって無力さを感じさせることができていなかったと考えられる。

高知工科大学 経済・マネジメント学群

2022 年度 卒業論文

助けられて傷つくのは誰か
—無力さと性差の検討—

指導教員氏名 三船恒裕

学籍番号 1230470

氏名 隅田奈央